

課題設定能力の育成を目指す指導と評価の実際

福井県立若狭高等学校 教諭 渡邊久暢

kkanabe@mitene.or.jp

0 本校の概要

- ・全日制 28クラス(普通科・国際探究科・理数探究科・海洋科学科) 定時制 4クラス(普通科)
- ・若狭地域の中学生の2／3が入学 多様な進路

1 本校が行った探究的な学習における「目標・評価の計画」策定のプロセス

1. 1 「生徒への期待」・・・生徒はできる!!!はず(*^_^*)

- ・生徒を信じて委ねてみれば、何かが生まれるはず。
- ・精神論！と言われるかもしれないが、この生徒観に立てるかどうか、探究的な学習をうまくデザインする鍵ではないか？

もともと、生徒一人一人は、なんらかの知識や、興味関心を持っており、世の中の事象に対して自分なりの解釈や説明を行っている・・・構成主義的学習観

1. 2 「生徒への願い」

- ・「どんな仕事に就こうとも、生涯を通して学び続ける自立した学習者となり、今後の社会を創造していく人財になってほしい。」という生徒への願いが出発点。
- ・「期待と願い」を授業担当者が共有することが、「目標・評価の計画」策定における重要なポイント。

1. 3 「期待と願い」から生み出された目標

- ・社会を創造する人財となるには、自ら課題を設定し、仮説を生み出す能力が必要。つまり「『問い』を生む力」＝課題設定能力の育成を目標にすべき！
- ・本校が設定する課題設定能力とは

「事象の背景や現状を分析し、科学的根拠をもって仮説を立て、
自らが発展的、独自性のある課題を設定する能力」

初出 2014 若狭高校研究雑誌第44号 小坂康之教諭の設定
大阪教育大学 准教授 八田幸恵氏の指導による

本校は、SSH 運営指導委員の八田氏による目標・指導・評価に関する丁寧な指導を受けた上で
探究的な学習のカリキュラムを組織している。

- ・高次の学力である課題設定能力だからこそ、探究的な学習を通して培う。
- ・学校の教育目標・学習指導要領を踏まえた上で、探究的な学習の一つである「総合的な学習の時間」で培いたい能力を、以下のように設定

若狭高校の教育目標
「異質のものに対する
理解と寛容の精神」を養い、
教養豊かな社会人の育成

学習指導要領 総合的な学習の時間の目標
 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、
 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、
 よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、
 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究
 活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、
 自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

総合的な学習の時間(3年間)を通して
若狭高校が育成したい能力
里海湖・里山の豊かな自然環境・エネルギー研究施設等の
多様な地域資源から課題を設定する能力。
 さらには、地域の行政や住民組織・研究者・他国の人々等、
様々な背景を持つ他者と協働しながら
設定した課題を粘り強く解決する能力

初出 2015 若狭高校SSH申請書

1. 4 探究学習における課題設定に関する悩み

★逡巡期その1★・・・「教師が誘導すべきか、生徒の主体的な決定を優先すべきか??」

2011～2012

- ・やはり、良い「課題」であるほど、良い過程・良い成果へと導くことが可能。
- ・探究の成果が拙いものにしかなかった場合、教師も生徒も意欲減退。
- ・とはいえ、教師が課題設定を主導することは、自立した学習者へ導くことと逆の方向性になるのではないか。。。

★逡巡期その2★・・・「生徒の主体的な決定を最優先にして良いのか?」

2012～2013

- ・あくまでも生徒の主体的な決定を優先しよう!
 (何のために我々はこの学習をデザインしているのかを考えると、それが当然)。
- ・とはいえ、生徒が「これを探究したい」というテーマならば、何でもありで良いのか??

- ・探究学習の成果（学会で入賞など）が主たる目的ではないのだから、『これやっても成果は出ないかもしれない』という設定課題でも、できるだけ可能性を探ろう。」

- ・だが、生徒それぞれが好きな課題を設定していくことが、本当に良いことなのか。

- ・「なぜ研究をするのか」につながる研究倫理、社会貢献意識の涵養も図りたい。

★逡巡期その3★・・・「地域素材を活かした研究テーマへと導こう」

2013～2014

- ・教員の中には、あまりにも身近な事象は「科学的な研究」として発展させにくいのでは、との危惧あり。

- ・SSH 運営指導委員・研究をご指導くださった研究者の方々から、

- ・身近な自然環境・地域資源を活かしたテーマこそが、生徒の科学的興味や関心を引き立てるのであり、それこそが、地方公立高校の強みであること。

- ・研究開発を通して地域社会に貢献することが、研究の大きな意義であること。

- ・身近なテーマであっても、科学的な視点に立った研究課題が設定可能なこと。

などの示唆を頂き、2014年度以降は豊富な地域資源を題材としたテーマを推奨した。

★地域資源を学習素材として活用することの成果～生徒の課題研究への主体性の高まり～

2015～

- ・身近な素材に基づく課題を自ら設定し、それについて探究することは、生徒にとっての探究意欲をかき立てる。

- ・探究プロセスとその成果や課題を地域の方に訴えることによって、地域の方々から、目に見えるフィードバックをもらえることも、意欲の高揚に大きく寄与した。

**主体的に課題設定・解決に取り組むことが、
課題設定能力育成には不可欠**

マスコミに取り上げられることも自分たちの活動に対する自信と意欲の向上につながる！

3年生の小浜市役所にて発表が記事に



市職員や来庁者らに研究成果を発表する若狭高校生＝25日、小浜市役所

1年生の総合学習が取り上げられる



若狭高 民宿経営者らが授業

地域の現状を見つめ課題の解決法を探る総合学習の授業。地域の方から学ぶことが25日、若狭高で開かれた。

同校の1年生約300人を対象に、地元で働く人たちに職業観や人生観を学ばせる初めての開催。弁護士や看護師として働いている同校の卒業生、小浜市で働く人たちが講師に迎え、職業若くは世代の跡継ぎが活躍

地域の仕事、課題学ぶ

地域の現状を見つめ課題の解決法を探る総合学習の授業。地域の方から学ぶことが25日、若狭高で開かれた。

同校の1年生約300人を対象に、地元で働く人たちに職業観や人生観を学ばせる初めての開催。弁護士や看護師として働いている同校の卒業生、小浜市で働く人たちが講師に迎え、職業若くは世代の跡継ぎが活躍

16のテーマで地域研究

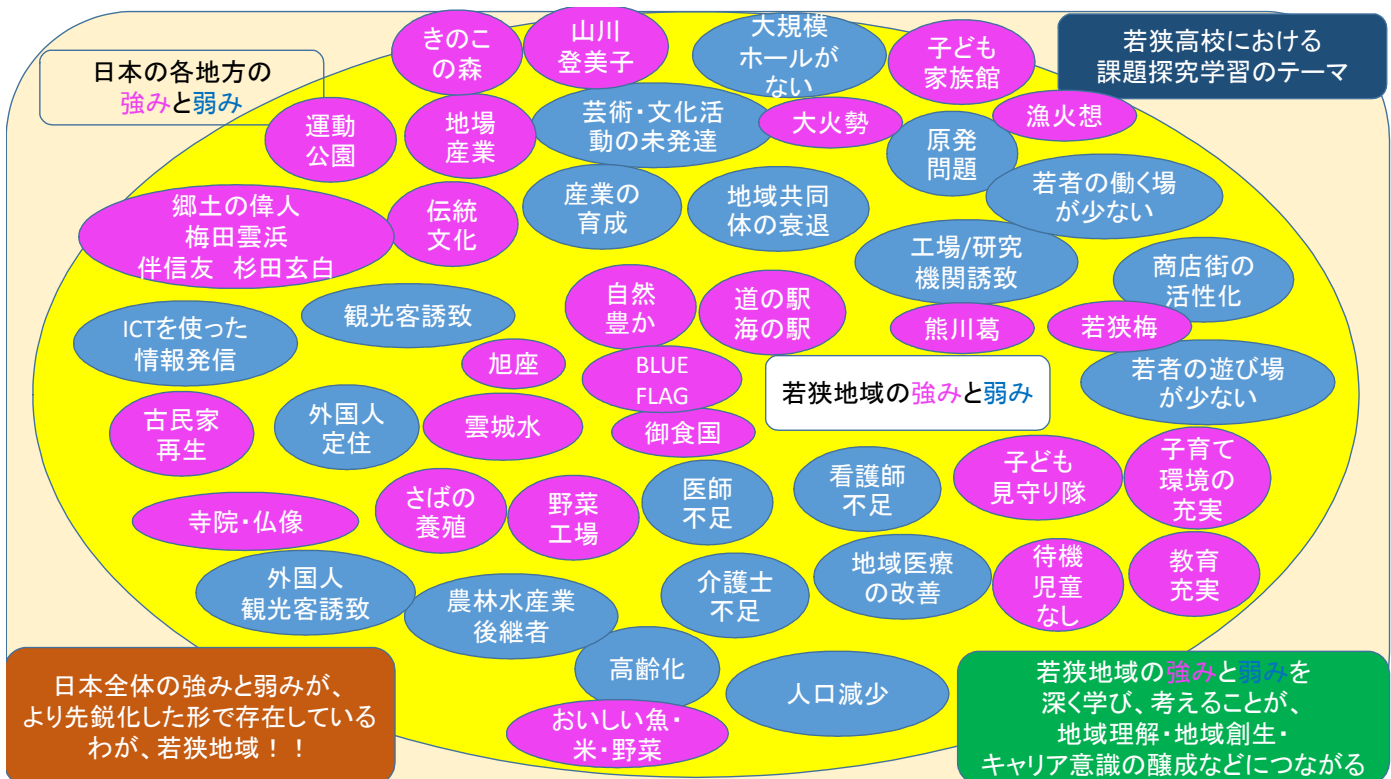
若狭高校生小浜で披露



若狭高校の1年生約300人が、小浜市役所で行った地域研究の発表会。16のテーマで、地域の現状を見つめ課題の解決法を探る総合学習の授業。地域の方から学ぶことが25日、若狭高で開かれた。

地域課題に基づく学習は、マスコミからも高評価

豊富にある若狭地域の強みと弱みから探究課題を設定していくことが、
課題設定能力の育成に有効に働くと確信



1. 5 多様な地域資源を素材とした探究学習の実際

★ 社会科学分野の探究学習・・・3年国際探究科

② 3年国際探究科 地域社会の高齢化・若者人口の減少に伴う課題研究



若狭地域の漁村、
「田島」地域の
資源を活かした
フィールドワークに
基づく課題研究



地域素材に基づく課題設定により、フィールドワークが充実し、研究としてのレベルも高まる。昨年京大で行われた「探究成果ポスター発表会」では、高い評価を得た。

★ 自然科学分野の探究学習・・・1年文理探究科

三方湖における「年縞」サンプリング調査 福井県若狭町(三方湖) (福井県里山里海湖研究所との連携)

「江戸時代の小氷期(飢饉のころ)、
若狭地方の気候は？」



三方湖の湖底堆積物を試料に用い、湖底の堆積物中に含まれる花粉の種類や量を分析することで、当時の気候を復元。江戸時代3大飢饉時の若狭地域の気候の復元にチャレンジ！

福井県里山里海湖研究所と連携して本格的な研究を行った。研究成果の学会発表を通して、自身の研究が地域社会に貢献するだけでなく、学門の発展にも寄与することを体感した。

1. 6 課題設定能力の評価基準

「課題設定能力」を評価するための観点は、

- ① 研究の動機 ② 科学的に解決可能な問題への定式化
③ 地域の問題認識の深さ ④ 持続可能な開発発展に役立つものであるかどうか
⑤ 学びに対する自主的・主体的な態度

課題設定能力の評価基準表(現在改訂予定)

レベル	実現状況
5	地域の様々な情報を正確に収集し、問題の背景を総合的な視点でとらえ、自らの課題として課題を捉えた記述がある。科学的な視点で具体的な仮説が立てられており、解決可能な手法を用いた科学的で具体的な解決方法の記述がある。地域及び学問領域において持続可能な開発発展に役立つ課題であることが具体的に説明されている。自らの興味関心、知識や技術を十分に把握したうえで、課題を設定することへの積極性や研究活動の意義を具体的に記述している。
4	地域の様々な情報を正確に収集し、問題の背景を総合的な視点でとらえた記述がある。科学的な視点で仮説が立てられており、解決可能な手法を用いた科学的な解決方法の記述がある。地域及び学問領域において持続可能な開発発展に役立つ課題であることが説明されている。自らの興味関心、知識や技術を十分に把握したうえで、課題を設定することへの積極性や研究活動の意義を記述している。
3	地域の様々な情報を収集し、問題の背景の記述がある。仮説が立てられており、解決可能な手法を用いた解決方法の記述がある。持続可能な開発発展に役立つ課題であることが説明されている。自らの興味関心を示し、課題を設定することへの積極性や研究活動の意味を示す記述がある。
2	地域の情報の記述が少ない。偏った記述がある。仮説の記述が具体性がなく、科学的にあいまいである。自らの興味関心、知識や技術の認識が浅く、課題を設定することへの積極性や研究活動の意義の理解が浅い。
1	地域の情報の記述がない。仮説の記述がない。自らの興味関心、知識や技術の記述がない。課題を設定することへの積極性や研究活動の意義を記述していない。

初出2014 若狭高校研究雑誌第44号 小坂教諭作成 大阪教育大学 八田氏の指導による

ここで急いで断っておくが、評価基準表は、生徒のネズミに使うのではない
測定ではなく、指導の一環としての評価を実現する

評価基準表を作成し、生徒にも事前に提示することで、

- ★生徒が、自己評価に活用し、学習の改善を行う。
- ★指導者が、生徒の学習過程を探究過程を記した学習ノートや、実験レポートに基づき**形成的に評価**し、指導の改善に資する。
- ★論文や口頭発表、さらにはカリキュラム全体の**総括的評価**にも利用する。

1. 7 多様な人々による評価への参加

研究者や中学の先生や生徒、PTA 役員、保護者、地域行政担当者、地域住民、他国の生徒、など、多くの方に教育活動への参加を促し、探究の成果はもちろん、探究のプロセスも学校外に開くことを通して、多様な人々による評価への参加を図る。

○小浜市民への発表会 ○中学生への出前講座 ○環境エネルギー学会 ○各種学会
○校内研究発表会 ○おおい町での行政への提案会 ○ホームページ・Facebook での発信
○シンガポールテマセック JC とのスカイプミーティング

★探究協働会議

課題研究の推進に関して、大学や研究機関の研究者から年間を通して継続的に指導を受ける「探究協働会議」を開催する。生徒が研究の進捗状況を報告し、研究者との議論の中から研究の正しい方向性を見出す機会となる。

回	月	研究の節目	実施の効果
第1回	6月	課題設定に難しさを感じる時期	「問い」の方向性が定まり課題設定能力が向上
第2回	9月	実験計画の見直しを迫られる時期	「科学的な定式化」を行う思考力育成
第3回	2月	実験結果の考察や議論が必要な時期	思考力育成、表現力育成

1. 8 形成的評価の実際

生徒への指導	研究ノートに書かれた、研究目的・研究方法に関する、生徒記述の変化
研究当初に考えた、研究目的と方法	目的 伝統食品が今も食べられてい続けているのは、私たちの生活や健康に対して 何かしらの効果 のためだと考え、どのような効果があるのかを調べる。 方法 塩ウニ や へしこ から有効な成分を抽出して分析を行う。 ペプチド 、 食塩量 、 味 。
・探究協働会議を1回経験 ・ルーブリックの提示後	目的 伝統食品が今も食べられてい続けているのは、私たちの生活や健康に対して 何かしらの効果 のためだと考え、どのような効果があるのかを調べる。 方法 市販品塩ウニと生ウニ の熱水抽出エキスの塩分濃度、食塩添加量が15%と30%である伝統的製造方法で熟成させた塩ウニの タンパク質濃度 、 ACE阻害活性 をローリー法とCushmanの方法で測った。さらに熱水抽出エキスを高血圧自然発症ラットに投与し、一定時間ごとに血圧を測定した。
・探究協働会議を2回経験 ・福井県立大学の研究室で実験を継続した後	目的 生鮮パフンウニに、7%以上の食塩を加え、熟成される塩ウニは、福井県の城主松平家が、開発製造した日本3大珍味のひとつである。越前海岸周辺では、現在でも珍味や保存食としてだけでなく 滋強壮や体質改善などに効果があるとされ 製造されている。そこで、本研究では、 塩ウニの健康性機能探索するために塩ウニ熱水抽出エキスの高血圧抑制効果 について研究を行った。 方法 生鮮パフンウニ 、 市販品食塩添加7%塩ウニ 、 伝統的製法の食塩添加15%塩ウニ の、それぞれの熱水抽出エキスを調整した。熱水抽出エキスの 塩分濃度 、 ペプチド濃度 を測定し、高血圧抑制効果はCushmanの方法による ACE阻害活性測定 と高血圧自然発症ラット(SHR)の 経口投与 から測定した。

研究の目的・方法が次第に洗練されており、研究課題が精緻になりつつある。課題設定能力の高まり、科学的思考力の深化が見て取れる。

2 「課題設定能力育成」という目標実現に向けた教育課程のデザイン

○普通科・海洋科学科 総合的な学習の時間（1年～3年）

○理数探究科 2年以降の探究科学Ⅰ・Ⅱ

○国際探究科 2年以降の社会研究

総合的な学習の時間 3年間の流れ

第3学年・・・新たな課題を発見

課題をさらに洗練しつつ、研究を継続すると共に、
その成果を日本語・英語による論文作成・学会発表すること
を通して、**新たな課題を発見する**

第2学年・・・課題の洗練

発展性・独自性のある研究課題を設定した上で、少人数グループでの課題研究活動を通して、事象の背景や現状を分析し、科学的根拠をもって仮説を立て、粘り強く解決しつつ、**課題を洗練していく。**

第1学年・・・課題発見の萌芽

主体的・協働的に学ぶ姿勢や、研究に対する倫理観を
育みながら、基礎的な探究手法を習得させつつ、
研究したい課題を見つけさせる。

③ 1年普通科・海洋科学科・・・「総合的な学習の時間」 地域社会の活性化・地域環境の改善 等に関する課題研究

①探究学習に関する知識・技能を習得する。

（より良い探究学習のあり方に関する知識や、ブレインストーミング・KJ法・構想マップ・メディアリテラシー等の技能を習得する）



自分の考えを思いつくだけ書き出す、ブレインストーミング



アイデアを、グループに分けて整理する KJ 法

③主体的・協働的に学ぶ姿勢を身につける。



クラス内でいろんな人と関わり合いながら、主体的・協働的に探究学習を進めます

②伝え合う力を身につける

（ペアトーク・スピーチ・プレゼンテーション・ポスターセッション等）



校内発表会でのポスターセッション



小浜市長に研究の成果をプレゼンテーション

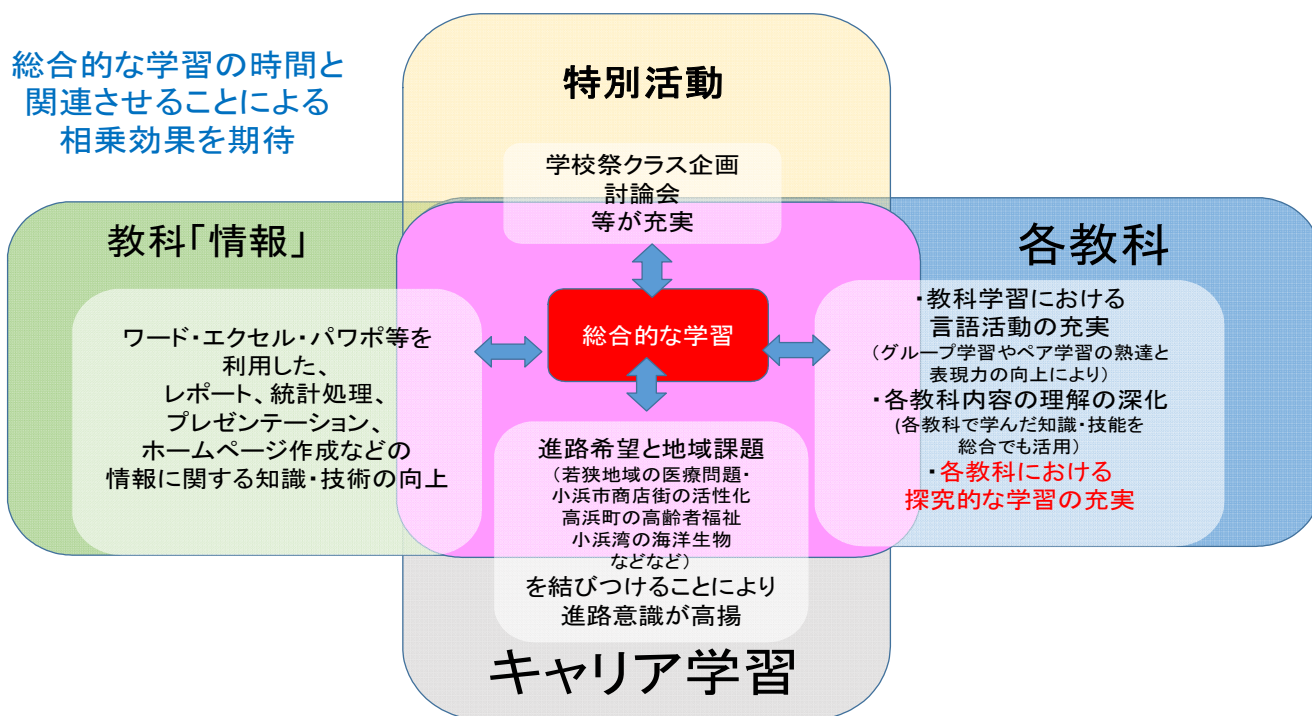
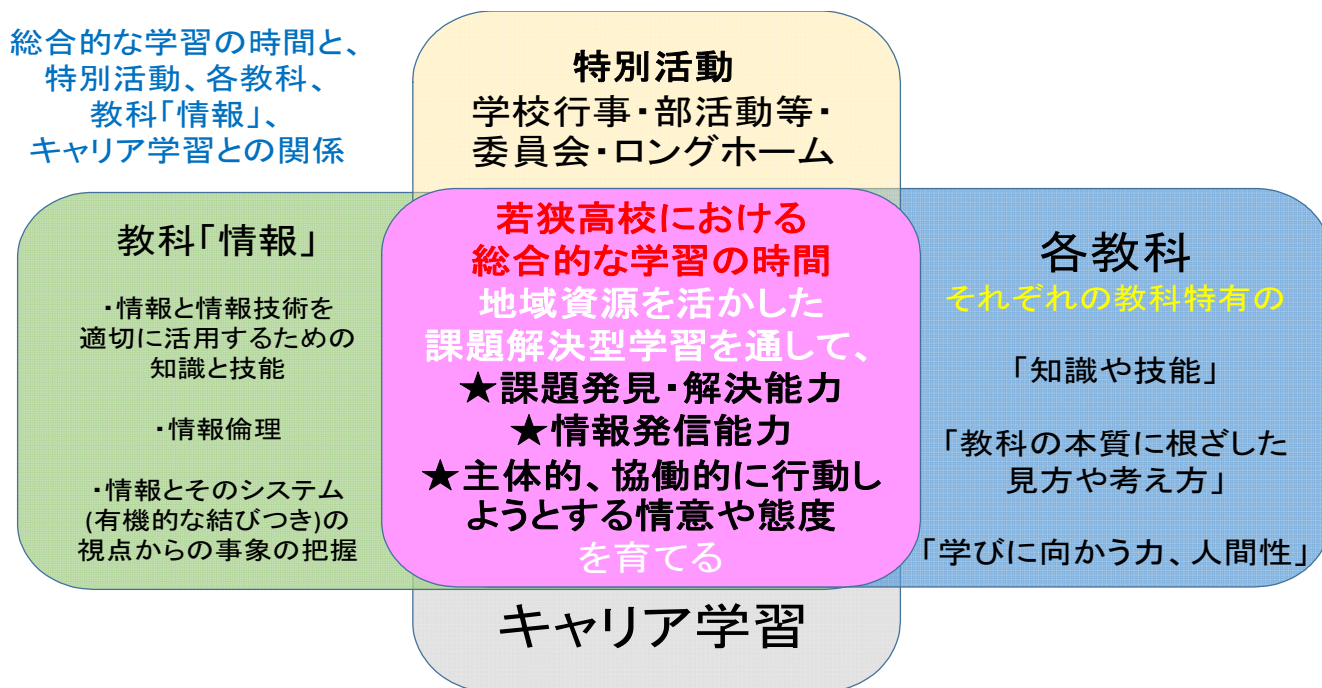
④地域の課題を発見し、その解決を通して、地域に貢献する



おい町長に対するプレゼンテーションが新聞記事に



熊川葛スイーツコンテストにて金賞受賞！！



・課題設定能力は総合的な学習の時間単独で育つわけではなく、教育課程全体で育むもの。

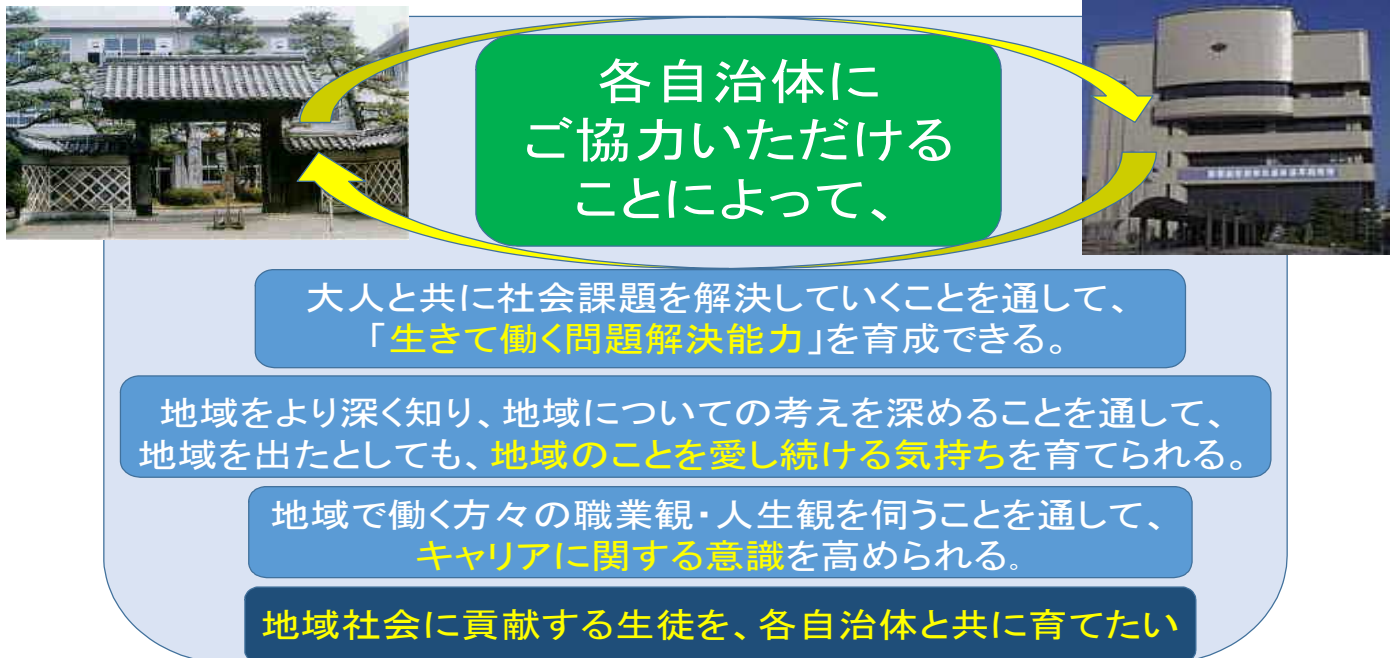
例えば国語では、生徒自身に学習課題を設定させ、解決に向けて探究させる。(この小説をより深く、楽しく読むためにはどのような「問い」について考えていけば良いかを考えさせ、論文に仕上げる、など)。社会科や英語科では教師が与えた探究課題に取り組ませている。良質の課題に取り組むことを通して、「どのような課題が良い課題」かを理解する。

★ロングホーム・教科情報・特別活動・総合的な学習の時間を中心とした年間学習計画(案)

LT/情報/総合 を連動させた学習計画(案)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
LT	4月20日(水) 先輩の発表を拝見！ 探究学習のゴールを確認！ (1時間・総合との振り替え) 2年生が昨年度行った研究発表を聞く。	5月25日(水) 地域の方から学ぼう！ その1 (1時間・総合との振り替え) 各市町村の担当課の方・NPO・研究者等を招き、地域課題・地域資源についての講演・ワークショップ。 クラスを解体し、希望する講座に分かれる。	文理分け説明会？			9月14日(水) 地域の方から学ぼう！ その2 (1時間・総合との振り替え) 各市町村のふるさと納税担当課の方等による、講演・ワークショップ					1月18日 地域の方から学ぼう4 1月25日 地域の方から学ぼう5
	2年生の発表を聞くことで、学年末のゴールをイメージする。	進路部と連携しながら、進路活動の推進につながるような活動としたい。 探究科・普通科の生徒もインターンシップ的な活動ができないか・・・ (希望者進路生の履修体験みたいな・・・夏休みの利用を通して)				専門家を招く活動がさらに必要な場合は、LTと総合の振り替えを行いながら、柔軟に対応する。				クラスを解いて、似通ったテーマを集め、専門家からアドバイスをもらう。	
情報 (木村先生という話しながら考えているところの「たき台」です。野坂先生とも、お話ししながら、今後始めていきます。)	①授業ガイダンス・CAI等の使い方 ②IDとパスワード 図書館の使い方 ③ワードでクラスメート宛の「私の取扱説明書」を作ろう！ (ワードの基礎操作と、キータッチのトレーニング) ④・⑤座席は自由席が良い？ 物事を複眼的に見てみよう。	⑥・⑦メディアリテラシー (新聞記事とネット情報) ⑧⑨⑩統計にだまされない！ 統計処理とグラフ(原典・Excel・キーボード関連のテーマに基づき、統計処理と、グラフ作成をExcelにて行う)	⑪⑫ 「高浜原発を再稼働」問題に関する論文を書こう！ (ワードの熟達・グラフの活用、情報探索・論理的思考力の育成)	⑬⑭ 「論文に基づき、プレゼンテーションしよう」(パワーポイントを用いた口頭発表)	「地域課題についての考えを深める」活動を通して、下記の内容を取り扱う。 ★情報の活用と表現・情報通信ネットワークとコミュニケーション ・メールによる情報伝達 ・SNSのメリット・デメリット ・メディアの性質・選択 ・画像、動画処理 ・ビッグデータの処理・統計 ・コンピュータネットワークの仕組み(コンピュータの仕組み) ★情報社会の課題と情報モラル ・情報科が社会に及ぼす影響と課題・情報社会における法と個人の責任 ・情報セキュリティ ★面白い情報社会の構築 ・障がい者にも優しいホームページ						
	「情報」においても、産学だけではなく、クラス内のコミュニケーションを円滑化できるような活動を取り入れる。活動を通して他校に関わる知識や技能を育てていく。	6月以降は、重要な地域課題である 原子力発電所の再稼働に関する論文を書き、発表することをゴールに見据え、「 <u>「復旧の見方」</u> 」「 <u>批判的思考力</u> 」「 <u>統計処理能力</u> 」「 <u>情報処理能力</u> 」 「 <u>論文の書き方</u> 」「 <u>ワード・エクセル・パワーポイントの操作技能</u> 」を習得していく。 原発の再稼働について、良い見聞点と悪い見聞点からの論文を書く。 (昨年度は片方だけだった)ことを通して、思考力/判断力/表現力を培う。				2学期の目標は、以下4点。「地域課題についての考えを深める」活動を通して、下記の資質・能力を育てられないか、今後単元開発を行う。 ①情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得 ②情報に関する科学的な見方や考え方を養う ③社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解する ④社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる					
総合 (あくまでも「たき台」です。学年会の皆さんと協働しながら、良い授業を作っていけると良いなあと思っています。)	①出身中学校自慢！ 自分の考えをわかりやすく伝えよう。 ②・③チームワークを競おう！ 協力して課題を解決しよう。 (新聞復元ゲームなど)	④⑤若狭地域の課題を発見しよう ⑥統計・KJ法、マインドマップ ⑦講演の感想を交流しよう！	⑧⑨自分の進路と絡めつつ、考えたいテーマを絞り込もう。 (プレスト・KJ法、マインドマップ・情報探索・書籍活用)	⑩⑪地域の方から学ぼう！その1 各市町村の担当課の方・NPO・研究者等を招き、地域課題・地域資源についての講演・ワークショップ。 クラスを解体し、希望する講座に分かれる。2時間 ⑫一学期のふり返りと、夏休みの探究計画立案	⑬⑭⑮地域課題解決 その1 自分の出身市町の「ふるさと納税返礼品」を考えよう！	⑯⑰⑱地域課題解決 その2 自分の出身市町の「ふるさと納税返礼品」を考えよう！	⑲⑳？地域課題解決 その3 観光客増加に向けたプランを考えよう	㉑？地域課題解決 その4 各市町村の観光担当課の方等による、講演・ワークショップ(2時間) ？？地域課題解決 その5 観光客増加に向けたプランを考えよう		1クラス4人・6グループを組織。グループごとにテーマを決め、探究。2月に発表。	
	アイスブレイク・エンカウンター的な活動を通して、クラス内のコミュニケーションを円滑化。主体性/協同性の育成をメインの目標に。				次年度の文理選択・コース選択も見据えて、進路活動の推進も図る。 最終的なキャリア意識や、自身が学びたいことを、地域の現状を学ぶことを通して意識させたい。				6時間ごとの「ミニ探究活動」を2回行うことを通して、探究技法を習熟させると共に、自分なりの研究課題を設定させていく。		

★地域の学校であるメリットを最大限に活かし、地域の皆様と強く連携する

★地域資源を素材とする探究学習実施では、市町の自治体の協力は不可欠



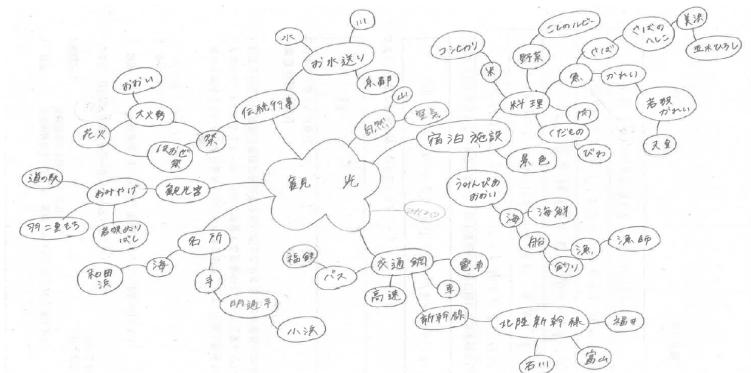
28年度からは、通学圏内の4市町の行政担当者と本校担当者が、毎月一回、一堂に会し、若狭高校の探究学習をどう支援するかとの打ち合わせを行っている。

3 課題設定に至る指導の実際

3. 1 マインドマップの作成

まずは、自分の興味関心が何であるか明確にするため、マインドマップを作成させた。マインドマップ作成後は、関心の高い分野が共通する、もしくは近い者同士をグループにまとめ交流させた。その上で自身が興味関心を持つ分野には、どのような事象や小さな問いがあるのかを書き加え、さらに分析を行っていった。

生徒は「同じテーマではあるが少し方向性が異なった意見を持っている人が数名いたので、その人たちと話すことは、テーマを設定するうえで良い刺激となった。」と、ふりかえり述べている。



3. 2 先輩が行った探究の歩みを学ぶ



3. 3 地域の方を招いてのワークショップ

若狭地域で働いている方や若狭地域ご出身の卒業生など 18 名にお越しいただき、それぞれの生徒が自身の気になっている分野についての知識を深めた。

ワークショップの18テーマ

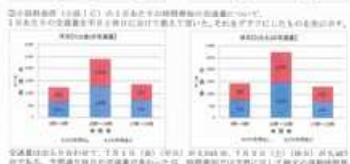


1	看護師、助産師の方の視点から地域について考えよう。
2	法律のスペシャリストの方の視点から地域を考えよう。
3	人口減少問題から地域を考えよう。
4	地方公務員の視点から、地域貢献について考えよう。
5	地域おこし協力隊の方の視点から、地域を考えよう。
6	地域経済の視点から地域を考えよう。
7	高齢化社会のいま、介護の視点から地域を考えよう。
8	車社会の小浜で、自動車会社の方の視点から地域を考えよう。
9	電力会社の方の視点から、地域を考えよう。
10	薬剤師の方の視点から地域を考えよう。
11	地域医療を行っている医師の方の視点から地域を考えよう。
12	観光面から小浜を考えよう。
13	漁業、ブルーツーリズムといった視点から地域を考えよう。
14	若者によるまちづくりから地域を考えよう。
15	ディスプレイ、プランニング、デザインの視点から地域を考えよう。
16	工学分野の企業の視点から、地域を考えよう。
17	金融機関の視点から、地域を考えよう。
18	農業の視点から地域を考えよう。

3. 4 フィールドワークによる調査を夏休みの宿題に

夏休みを利用して、生徒一人一人が自身の考えたい問いについてのフィールドワークによる調査を夏期休業中の宿題として課した。

課題のサンプル



二学期から、課題を洗練させていくために、どうしていくと良いか、ただいま検討中です。

4 まとめ

探究的な学習のカリキュラムデザインを考える上で最も大事なことは、

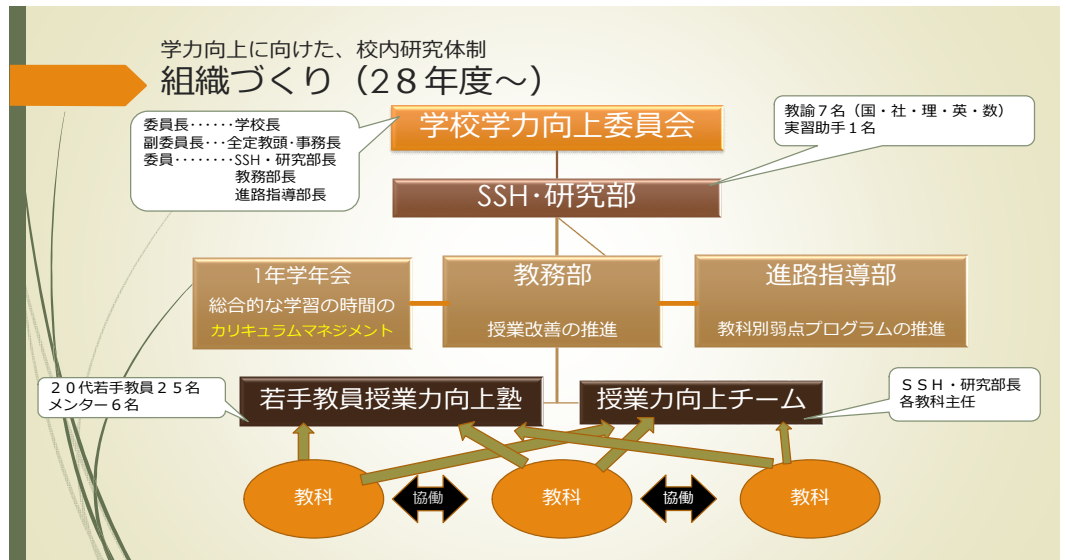
- ・目の前の生徒に何を期待し、どのような人財に育てたいのか、という期待と願い
- ・期待と願いに基づく学習目標の焦点化
- ・生徒が主体的に取り組むことができる素材
- ・生徒の学習改善・教師の指導改善につながる評価

5 よくいただく質問

★どのような教員組織で、探究的な学習を展開しているのか。

★教員の授業力向上に向けてどのような取組を行っているのか。

★評価はどうつけるのか



6 添付資料

ベネッセ教育総合研究所(2016) 「VIEW21 高校版 2016年2月号」

7 参考文献

- 田中耕治(2008)『教育評価』岩波書店
- 田中耕治編(2005)『よくわかる教育評価 第2版』ミネルヴァ書房
- G・ウィギンズ&J・マクタイ著、西岡加名恵訳(2012)『理解をもたらすカリキュラム設計—「逆向き設計」の理論と方法』日本標準
- 西岡可名恵・石井英真・田中耕治(編)(2015)『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト
- 西岡可名恵(2016)『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化
- 西岡加名恵・田中耕治(2009)『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版
- 西岡加名恵(2008)『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書出版
- 石井英真(2011)『現代アメリカにおける学力形成論の展開—スタンダードに基づくカリキュラムの設計』東信堂
- 石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは』日本標準
- 松下佳代(2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房
- 八田幸恵・末橘花・青木健一郎・福井県立藤島高校 SSH 企画会議(2012)『高校生のための研究入門』
- 八田幸恵(2015-a)「教師の自律的な学習と意志決定を基盤とした目標と評価のあり方—高校国語科教師の場合を事例として—」教育目標・評価学会紀要第25号
- 八田幸恵(2015-b)『教室における読みのカリキュラム設計』日本標準
- 八田幸恵・渡邊久暢(2013)「探究を導く「問い」を設定する能力の育成—高校国語科現代文『こころ』の授業研究を通して(2)—」教師教育研究 6
- 渡邊久暢(2015)『「生きて働く質の高い学力」を培うアクティブ・ラーニング」「高校教育 2015年11月号」学事出版
- 渡邊久暢(2016)『「生きて働く質の高い学力」を培う単元デザインのあり方—『アクティブ・ラーニングの時代』において』若狭高校研究雑誌 第46号